

Mランド 丹波ささ山校 ニュース Vol. 37

平成 22 年 4 月 1 日 発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上 569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940
 発行責任者 豊田 文雄 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

「サッカーAルーム」の秘密

近隣の方も合宿！

(篠山市内を除く)

四月～七月中旬、
十月～十二月末

この期間は通学圏内の方にも合宿で集中して免許を取得していただけます。(多くの方が利用される時期には遠方で通学できない方を優先します)

物質的に豊かな社会において、自立した大人になるためには、

人生の一時に親元を離れ、仲間と共に、時には競い合い、時には助け合う生活体験が必要だと思えます。人間は生まれてしばらくの間は母子共生の生活をしますが、一人前の大人になるためには、どこかの時期に母子分離が不可欠です。このことをしないまま歳を重ね、二十代、三十代まで癒着したままでは自立できないままの人生を送ることになってしまいます。合宿生活はそのような弊害を生じさせないための最も有効な教育システムだと思います。親元を離れ、互いに距離をおくことで、親子は互いの気持ちを理解できるようにもなります。離れてみて存在

の有難さがわかり、親からの過保護的な干渉から解放され、年齢にふさわしい問題解決力を身につけることができます。

Mランドの運転免許合宿には、「生きていくのに必要な多くの教育的な要素が含まれています」。もちろん免許取得のため勉強すること、仲間と遊ぶこと、時にはボランティア活動などで汗を流して人の役に立つこともあって心身の健康が保たれるためのバランスがそこにはあります。多くの人に接し、食事も含め生活リズムを保つこともできるのです。

世界最高の報酬を受け取っているアルゼンチンナショナルサッカーチームのメンバーはシングルルームではなくいつも三人部屋と決めていきます。チームワークの大切さと仲間と一緒にいることで磨かれる個性 彼等は三人もしくは二人部屋の生活には、人の力を引き出す秘密があることを確信しています。

Mランド丹波ささ山は、この三人部屋の秘密を皆様に、是非体験していただきたく、サッカーA(アルゼンチン)ルームと名づけました。

この部屋での仲間との体験があなたの一生の糧となりますように……。

■卒業にあたり、自分たちの足跡を残そうとMランドでの思い出を満載したトラックに楽しかったことやありがたさのメッセージをびっしり書き込んで置いていてくれました。



新人紹介



近藤インストラクター



前川インストラクター

はじめまして、近藤正幸です。この度インストラクターとなり三月十七日から実際に教習をさせていただいています。Mランドでのイベントではソウルメイトのギター伴奏担当です。

年齢は二十四才！今年は何年、本厄です。本厄というのは悪い意味と思われていますが、調べてみると「人生の曲り角」「起点」となる年でもあります。この年に合格できたので、インストラクターとして新たにスタートするには最適な年です。「曲がり角付近」ということで、駐車車禁止の場所です！先輩方の指導を受け、立ち止まることなく日々前進していきますのでよろしくお願ひします。

最後に、自分自身が日々成長していくことはもちろんですが、ゲストも周囲も日々成長していきます。共に学び、共に成長してまいります。

先輩方の熱心な指導のお陰でこの二月の審査で一発合格することができました。合格の発表を聞いたときには、過去に経験したことのない嬉しさが込み上げてきて、今思い出しても感謝の気持ちでいっぱいです。

ある先輩に「指導員になることが目標であってはならない」と言われたことがあります。審査に合格し、指導員になったことがゴールではなく、スタートラインに立ち、これから勉強の始まりです。あの時かけてくださった言葉を心にとめ、初心を忘れずに日々精進してまいります。

私の「今」の目標は人間力、指導力を身に付けた指導員になることです。そのためにまず挨拶を元氣よく、笑顔ですることから変えていきます。精一杯インストラクターという道を歩んでいきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

Mランド丹波ささ山の皆さまへ♥♥

めっちゃいい思い出がいっぱいできました。担当のインストラクターはいませんでした、いろんなインストラクターといろんな話ができ、毎日車乗るんたのしかたです！
 仲良い友達もでき、ここにきてよかったです。ボランティア、サンキューレターなどいろいろやったし、教習以外にも充実してました♥ お世話になりました♥

こばやし つねさぶろう

「小林 常三郎」

小林常三郎は安政六年（一八五九年）篠山市古市に生まれました。小林家は代々庄屋を勤め、多紀郡三大地主に数えられた旧家でした。

小林常三郎の残した功績の一つに「鉄道の誘致」があります。

阪鶴鉄道（現 JR 福知山線）は当初の計画に対し、篠山の乗り合い馬車や人力車の組合から「汽車が走ると飯の食い上げになる」と猛反対にあいました。そこで発起人で株主でもあった常三郎は「もし古市に停車場を設置するのであれば、無償で自分の土地を提供する」また「大沢にある土地も提供する（現 篠山口駅）」と線路変更を要望します。篠山の反対で困惑していた阪鶴鉄道はこの申し出を受け入れて線路を古市に向けました。「フルイチニキシヤハシルキマル」という決定の

良書を読む

電報に常三郎は「もう何も思い残すことはない」と言うて喜んだそうです。このようにして今から百十一年前、明治三十二年（一八九九年）三月二十五日、古市駅と篠山口駅が営業を始めた。

篠山が旧城下町らしい静かなたたずまいを今に伝えているのは、鉄道が街中を通らなかつたのが一因と言われています。とは言え、鉄道が完全に篠山を迂回していたのなら産業や暮らしにも大きく影響し、今の様子とは趣が違っていたであろうことは容易に想像することができます。

街のことを思い、将来を考え、行動した先人のおかげで現在の特徴ある篠山の街が生きているように思います。



当時を思わせる古市駅に続く旧道

Mランドでは、待ち時間

などを利用して本を読んでいた。こうとロビーやホームに書籍を用意しています。

読後に感想文を書いていた。だいたゲストにはMマネーポイントを差し上げ、心を育むことの一環として推進しています。

今回は、二人の方の感想文を紹介します。

本田宗一郎著

「私の手が語る」を読んで

竹田千夏

この前、新聞にアメリカで行なわれたあるアンケートの結果がのっていた。それは各界の著名人に、「尊敬できる企業」を問うたもので、HONDAは三十八位だった。日本の企業なんてあとはソニーとトヨタくらいしか入っていない。やはりアメリカ人にも本田宗一郎の思想は共感できるものようだ。

この本で語られている本田氏独自の思想や経営哲

学、歴史観などは非常におもしろい。古き良き時代を生きた人でありながら、現代の二十一世紀に生きる我々にとっても必要なのものが何かということばかりややすく教えてくれる。これからますます経済はグローバル化し、企業は巨大化するだろうが、本田氏の理念を受け継ごうとする人々がいるならば、世界の未来も多少はましな方向へいくのではないだろうか。

おもしろい本なので、ぜひ他の人にも読んでもらいたいと思う。

「魔法のメガネ」を読んで

仁科美沙

この本を読みたいと思ったきっかけは、本のタイトルだった。魔法のメガネとは何なのかを知りたくなって読み始めた。それは本来誰もが持っているもので、ただそのメガネを使おうとしていなかったことに気が付いた。普段、何気なく暮らしている生活の中でも少し意識を変えただけで、物の大切さや人を見る目が変わるのだ

編集後記

桜のつぼみが膨らみ、いよいよ咲き始めるものと楽しみに思っているところに雪がちらつく、なんとも不思議な光景を目にしています。

この三月まで多くのゲストにお越しいただき、Mランドを体験され、誰ひとりうつぶくことなく、みんなが胸を張ってここをあとにし、それぞれ道を歩み始められました。卒業のたびに見送りが、彼らの在籍期間中のエピソードを思い出しながらも表情の輝きをまばゆく、頼もしく感じています。旅立ちに別れを惜しんで涙する人もいますが、今日のこの雪も同じように名残を惜しんでの雪でしょうか。

いずれにしても「前進あるのみ」全員の前に道は大きくひらけています。（文）

坂村真民

よい本を読め
よい本によって
おのれをつくれ
心に美しい
火を燃やし
人生は尊かつたと
呼ばしめよ

※Mランドでの待ち時間は、仲間と話したり、本を読んだり、静かに気持ちを落ち着けることに使います。本来、これが日常的に行なえればいいのですが、テレビやゲーム、携帯が邪魔をします。



桜のつぼみと
雪のコントラストが...